

がん予防の研究と実践を、次の一步へ

◎がん予防学術大会2026静岡

本学の山本精一郎教授が会長を務める、第49回日本がん疫学・分子疫学研究学会と、第33回日本がん予防学会総会の合同開催による、「がん予防学術大会2026静岡」が令和8年6月25日・26日に静岡市の静岡音楽館AOIで開かれました。

日本全国から約130名が参加し、「がん予防の社会実装とその課題」「社会実装を見据えたがん早期診断研究の出口戦略」などをテーマに議論。自治体のがん検診受診率向上策や、研究成果を社会に届けるための課題が共有されました。本学共催のランチョンセミナーでは、本学のコホート研究や静岡県KDBを用いた研究を紹介し、学生も本学の魅力を発信。研究と実践をつなぎ、がん予防の社会実装を考える貴重な機会となりました。



静岡社会健康医学大学院大学
教授(疫学・統計学・
ヘルスコミュニケーション)
博士(保健学)

山本 精一郎 教授

山本教授よりコメント

研究成果は、社会に実装されてこそ大きな意味を持ちます。今回、がん検診を例に、研究者が社会実装で果たす役割や難しさについて議論できました。自治体や企業と連携し、「知っていること」と「できていること」の間にある溝を埋め、実践につなげる研究をさらに進めていきたいと思います。

成果報告会

令和8年7月16日、県、市町、関係団体の皆様に向けた「社会健康医学研究成果報告会」を開催しました。

当日は、本学教員3名と修了生3名が登壇し、地域課題の解決につながる実践的な研究成果を発表しました。

発表テーマ

- ・3歳児の就寝時刻と小学校1年時の肥満との関連(修了生 林優子さん)
- ・周産期喪失を経験した女性に対する保健師の支援内容とその課題—半構造化個人インタビューによる質的研究—(修了生 加藤友里さん)
- ・自治体における新任期行政保健師が感じるストレスの実態及び関連要因の検討(修了生 辻村祐貴子さん)
- ・静岡県下の高齢者集団居住施設の災害準備状況(森寛子学内教授)
- ・袋井市における減塩調味料の配布による減塩にかかわる食行動および降圧効果の検証のための介入研究(佐藤清香講師)
- ・SKDBオープンデータ化およびダッシュボードウェブアプリケーション(仮称:SKDBオープンデータ分析サイト)の開発・運用(佐藤洋子講師)

→オープンデータサイトは、次回以降のニュースレターで詳しく紹介予定です!



本学について

国際社会に貢献する「知と人材の拠点」へ

静岡SPH (School of Public Health)

本学は、2021年に開学した社会健康医学を学べる大学院大学です。公衆衛生学の5領域を基盤とし、医療ビッグデータ解析やゲノム医学、オーディオロジー(聴覚言語学)について学ぶことが可能で、医師や看護師、また行政の保健師、管理栄養士などさまざまな職種の方が通っています。



直近の活動報告

Special Dialogue

高市内閣総理大臣 × 溝田教授 対談

がん検診と精密検査の受診を、ひとりでも多くの人に

本学の溝田友里教授が、高市内閣総理大臣に、ナッジ等の行動科学を活用したがん検診と精密検査の受診勧奨の取り組みである〈希望の虹プロジェクト〉や、全国自治体とNHK「あしたが変わるトリセツショー」が連携した受診勧奨キャンペーンについて説明し、協力を依頼しました。



がん検診・精密検査の受診率向上について意見を交わす高市内閣総理大臣と溝田教授

主な対談の内容

未受診者へ直接届ける受診勧奨

健康に関心がない層を含め、がん検診や精密検査を受ける人を増やすため、テレビ放送と自治体からの受診案内を組み合わせた取り組みについて説明しました。

約600自治体へ広がる取り組み

2018年からこれまでに4回実施し、参加自治体は年々増加。今年は約600市区町村が参加し、がん検診対象の住民約300万人に、放送日に合わせて受診案内が届く予定です。

早期発見と精密検査受診を後押し

高市総理は、病気を早期に発見して対応することの重要性に触れ、がん検診に加え、必要な場合には精密検査をきちんと受ける人を増やす必要性を述べました。

NHK「あしたが変わるトリセツショー」と全国の自治体が連携

メディアの力を、がん検診を受けるきっかけに

≫ 大腸がん検診受診勧奨プロジェクト

全国約600市区町村が参加、がん検診対象の住民約300万人へ案内

NHK総合「あしたが変わるトリセツショー」で、2026年9月3日(木)に「がん対策のトリセツ2026」が放送されました。今回は「大腸がん検診と大腸がん精密検査」をテーマに、本学の溝田友里教授が主催する〈希望の虹プロジェクト〉と全国の自治体、NHKが連携し、「がん撲滅キャンペーン2026」を展開しました。

放送では、大腸がん検診を受けることの大切さとともに、便潜血検査の方法や、検診で「要精密検査」となった場合には、その後の精密検査を受けることの重要性が紹介されました。便の表面を採便用の棒でなぞるなど、検査方法も分かりやすく示され、検診をより身近に感じられる内容となっていました。また、地域ぐるみで検診への関心を高め、実際の受診につなげる取り組みも紹介されました。

今回のキャンペーンでは、テレビ番組によってがん検診への関心が高まる時期に合わせ、自治体から住民へ具体的な受診案内を届けることで、その関心を実際の行動につなげることを目指しています。参加自治体では、〈希望の虹プロジェクト〉が作成した大腸がん検診のリーフレットやはがき、5大がん検診や大腸がん精密検査の案内などを活用し、それぞれの地域に合わせた個別受診勧奨を行いました。

放送翌日には、全国の市町村でたくさんの大腸がん検診の受診申し込みがあり、参加した市町村の担当者からは、反応の大きさに驚きの声が上がっています。中には「20年間一度も受診していない」という方からの申し込みもあり、普段の自治体からの案内では受診しない方々の受診が特に増えています。

2026年は47都道府県の約600市区町村が参加し、がん検診対象の住民約300万人へ受診案内を届ける規模まで広がり、静岡県では、県内35市町すべてに参加していただきました。

静岡県内で参加いただいた自治体

静岡市、浜松市、沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御殿場市、袋井市、下田市、裾野市、湖西市、伊豆市、御前崎市、菊川市、伊豆の国市、牧之原市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町、小山町、吉田町、川根本町、森町(県内35市町)

「知る」を「受ける」に変える、受診勧奨の仕組みを全国へ

テレビ番組の「がん検診に関心がない人にも、検診の重要性を楽しく伝えて、検診を受けたいと思ってもらう」効果と、市町村からの個別通知によって「次の行動(検診の受診)のための具体的な方法を伝える」効果の、両者の強みを組み合わせた受診勧奨キャンペーンは今回で5回目になります。毎回、参加した市町村からは、「たくさんの方が受

診してくれた」「放送後の反響の大きさに驚いた」といった嬉しい報告をいただいています。

年々、参加する市町村が増えています、特に静岡県は、疾病対策課のご協力のおかげで、全35市町が参加してくれました。

一人でも多くの方の受診に繋がるよう、この取り組みをさらに広げていきたいと思ひます。



静岡社会健康医学大学院大学
教授(行動科学、ヘルスコミュニケーション)、博士(保健学)、厚生労働省参与
溝田 友里 教授



放送に合わせ、キャンペーン共通のポスターを掲示し、がん検診や精密検査の受診を呼びかけ



<https://www.nhk.jp/g/ts/J6MX7VP885/>
〈希望の虹プロジェクト〉作成のリーフレットの利用を呼びかける石原さとみさん

キャンペーンの詳細はこちら▶

希望の虹プロジェクト
NHK「あしたが変わるトリセツショー」
がん撲滅キャンペーン2026について



番組と連動した各自治体の大腸がん検診受診勧奨の取り組み

静岡市

大腸がん検診キット配付イベントを実施

静岡市では、検診のための時間を取りにくい働き世代にも大腸がん検診を身近に感じてもらうため、日常の買い物の場を活用した受診勧奨に取り組みました。

市と包括連携協定を結ぶイオングループのイオン清水店ほか静岡市清水医師会健診センター、静岡市立静岡病院と連携し、40歳以上の市民を対象に検査キットや検診案内冊子を配付。通常は受診希望者自身が医療機関へ申し込む必要がありますが、今回は説明と同時に検診受付を行い、買い物のついでに関心を持った人が、その場で申込みまで進めるよう工夫しています。今後も受診勧奨や検診の重要性について周知するとともに、市の医療等に



関するデータを研究機関と連携して分析し、根拠に基づくリスク別の働きかけなど、より効果的な受診率向上策を検討していく予定です。



身体にイイこと、はじめましょ！～まちかど健康測定会～

・9月 9日(水)10:00～15:00 イオン清水店
・9月15日(火)10:00～15:00 イオンセントラルスクエア静岡
大腸がん検診の検査キットや検診案内冊子を配付し、その場で検診の申込みも受け付けました。

富士市

番組放送のタイミングに合わせて、身近な場所から検診受診を後押し

富士市では、働き盛り世代のがんによる死亡が多く、特に大腸がん乳がんへの対策を重視しています。多くの人が訪れるスーパーマーケットなどで啓発を行い、健康への関心が薄い人にも検診の大切さを伝えます。丘地区役員(丘地区健康づくり委員)とも連携し、身近な人からの声かけを通じて、未受診者の受診や不定期受診者の定期受診、必要な場合の精密検査までつなげることを目指しています。



袋井市

はがきやデジタル媒体で受診を呼びかけ

袋井市では、対象者への圧着はがきの送付や、市公式LINEなどのデジタル媒体を活用して、大腸がん検診の受診を呼びかけています。紙媒体では、検診の日程や受診方法など必要な情報を分かりやすく案内。あわせてデジタル媒体でも情報を発信することで、住民が利用しやすい方法で検診情報に触れられるよう工夫しています。複数の手段から情報を届けることで、検診をより身近に感じてもらい、実際の受診行動につなげることを目指しています。



県内に広がるがん検診への取り組み

〈静岡県疾病対策課〉

市町とともにがん検診受診を後押し

静岡県疾病対策課では、市町の受診勧奨を後押しするプレゼントが抽選で当たるキャンペーンや、市町の健康イベントでの啓発、メディアを使った広報などを展開しています。あわせて、市町担当者へのヒアリングや研修会、啓発資料の提供を行い、地域の取り組みを支援。銀行、生命保険会社、小売業者等とも連携し、従業員や顧客への受診勧奨や啓発動画の制作を進めています。今後も貴学と連携し、好事例の共有や情報交換を通じて、効果的で持続可能ながん検診体制の確保と受診率向上を県全体で後押ししていきます。

〈伊東市〉

アンケートで探る検診未受診の理由

伊東市では、県平均より低いがん検診受診率の改善に向け、令和7年9月から令和8年3月にかけて、5大がん検診を対象とした市民アンケートを実施しました。検診会場やメールマガジンなどを通じて回答を呼びかけ、537件の回答を収集。その結果、定期的に受診しない理由では「面倒」「費用がかかる」「特別な理由はない」が各24%と上位になりました。結果を踏まえ、土曜や夕方の検診実施、5大がんを一度に受診できる体制、24時間利用できるWEB予約など、受診しやすい環境づくりを進めています。